

2022～2023年度 小倉中央ロータリークラブ週報

第1274回 本日の例会 9月26日(月)

本日の卓話 「大切な方と心をつなぐノート」
サニーライフ明善社 藤原 香織 氏



例会日 月曜日 12:30～13:30
例会場 リーガロイヤルホテル小倉
事務所 小倉北区堺町1-2-16-3F
TEL 093-531-4015
FAX 093-531-1022

会長の時間 (9月12日 1273回 例会記録) 林田会長

出席報告 9月12日

ニューヨークの旅

主人が亡くなる丁度一年前の平成20年11月、主人も状態は小康状態であり、体調は安定しておりました。

日本の中心、東京が大好きな主人でしたので、「今度は世界の中心、ニューヨークに行ってみたら、ウォール街は世界経済を動かしてるよ。」と言ったら主人もその気になりましたので、佳子は休みをとって、直子は西海岸から東海岸にとんで合流することになりました。

その時、主人は咽頭の下、食道の上の方に癌がありましたので、胃瘻にして居りました。胃から昔の点滴のようにして缶詰の栄養、流動食を入れておりました。ですから、しっかりと缶詰栄養だけは忘れないように入れて持たせて、佳子と二人一週間の旅にでかけて行きました。

大都会が大好きな主人はうきうきで、楽しく観光。待望のウォール街にも行ってハーバード大学やボストン美術館、直子の卒業した大学院、ブロードウェイ、夜はジャズバーやいろんな所に娘二人と行ったようで、大いに楽しんだようです。

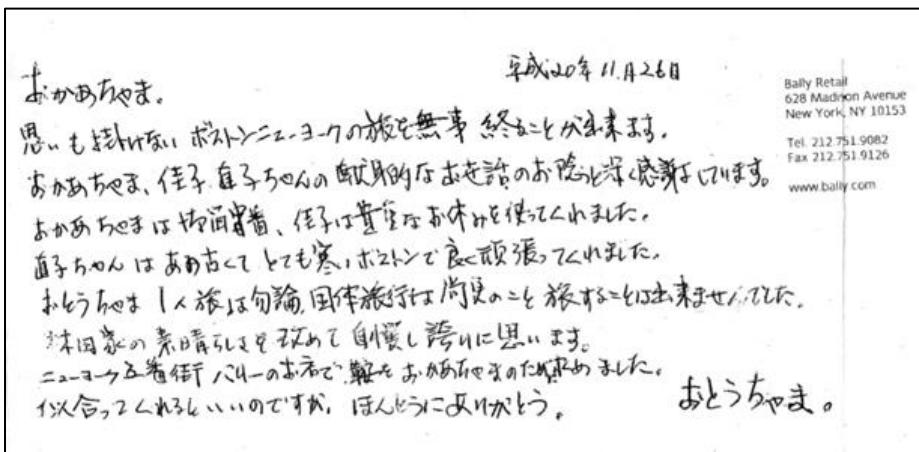
いざ帰ようになりまして、空港で水物は全部没収されて、主人の栄養の缶詰も全て没収されたようで、日本までの13時間、機内食についているスープを主に食べさせていたらしいのですが、途中で詰まったのか通らなくなったそうです。

CAに「注射器を持ってきてください。」と言ったら、医師のサインがないと出せないと言われたので、佳子が「私がやります。」と言ってサインして、注射器で押し込んで胃から入れたそうです。

やっと何とか帰ってきましたが、お姉ちゃんでもよかったな、とても私にはできませんわ、と思いました。

本人は大喜びで、ご機嫌で帰ってきました。留守番の私にバックを二つお土産に持って帰ってくれました。

その中にお手紙が入ってました。



最初で、最後のラブレターになりました。私の宝物です。

在籍会員数	40名
義務出席者	38名
ゲスト	0名
ビジター	0名
本日出席数	31名 うち オンライン1名
本日出席率	81.57%
前々回修正出席率	90.00%

次回(10月3日)の例会

観月会 🌙

時間 18:30～

場所 リーガロイヤルホテル小倉

9月のお誕生日

2日 細川 忠広会員

2日 田村 雅史会員

今月の主な予定

5日(月) 定例理事会

17日(土) R財団補助金セミナー
(オンライン)

17日(土) 米山カウンセラー研修会

幹事報告

古川幹事

- ・先週、卓話に来ていただいた西日本新聞社代表の甲木さんより、火事で焼失した小倉昭和館支援の署名の要請がありました。各テーブルに回覧しますので、ご協力をお願いします。
- ・本日 BOX に入れています「同好会アンケート」に関しましては、9月20日までに事務局まで提出ください。
- ・次週9月19日(月)は、祝日のため休会です。次回は、9月26日(月)です。

ニコニコ献金報告

累計 173,000円

小倉 RC 甲木様—先週は、卓話でお世話になりました。火災で焼失した「小倉昭和館」支援の署名活動を手伝っています。皆様もぜひ、ご協力よろしくお願ひ致します。

林田・古川・野口会員—梶原さん、急遽の卓話登板、宜しくお願ひします。

光應会員—梶原君、ガンバって!!

長戸会員—巫部部長いや師匠！今日の「Café de 囲碁教室」宜しくお願ひします。時間のある方、良かったら2Fのカフェでしています。

合計 12,000円

委員会報告



ガバナー特別表彰

2021~2022 年度
会員増強 第3位
(39名以下の部)

インターアクトクラブ募金活動報告 ~富士本副委員長~

8月28日(日)、東筑紫学園高校 IAC が小倉井筒屋前で24時間TVの募金活動を行いました。3年振りの活動で、例年より10万円ほど少なかったようですが、205,317円が集まりました。ご協力ありがとうございました。

卓話の時間

「お彼岸のお話」

梶原 謙吾会員



この度、お彼岸についてお話をさせて頂く中で「絹本著色二河白道図」と言う絵を見ながら「二河白道の譬」をご紹介させて頂きました。

その中で「南には火の河、北には水の河があり、その間に東の岸から西の岸に向かって白くて細い道がある。」と言う件があります。

何故、彼岸への道は細いのでしょうか。

それは、本当は広くて安全な道が用意されているのですが、火の河注1) 水の河注2) (瞋恚) (貪欲) に譬えられる私の煩惱が細く見せているからです。

注3) 親鸞聖人は御和讃に「煩惱にまなこさへられて 摂取の光明みざれども 大悲ものうきことなくて つねにわが身をてらすなり」とお示しになって下さいました。煩惱という色眼鏡をかけて物事を見ている私達は、阿弥陀如来の救いのおはたらきに気付くことができませんが、私を救おうとしてくださる大慈悲は、怠ることなくこの私に向けられている、と言う意味です。

「これからも、貪欲の水に溺れ瞋恚の炎に身を焦がしながら生きていく事になるでしょうが、此岸から聞こえるお釈迦様のお勧めの声と、彼岸から聞こえる阿弥陀如来の呼び声を頼りに、白い道を迷いなく歩んで下さい」と、「二河白道の譬」は伝えて下さっています。

「叱られた ご恩忘れず 墓参り」

親が私を叱ったのも、私が道を踏み外して迷わないようにと願っての事だったはず。勿論、御先祖も同じ思いでしょう。

先に往かれた方々に手を合わせ、西に沈む夕日に思いを馳せながら、聞法(聴聞)する。それが浄土真宗のお彼岸の過ごし方であります。

注1) 瞋恚(しんに) … 怒り、恨み、嫉み憎しみ等の心

注2) 貪欲(とんよく) … 尽きる事のない貪りの心

注3) 御和讃(ごわさん)… 親鸞聖人が鎌倉時代のはやり唄の節に乗せて仏教の教えを説いたうた。